

丸
比
島
方
面
部
隊

2149

歩兵第七九旅団司令部

年月日	略歴
昭和一九七〇年七月二〇日 至 一九七〇年八月二日	軍令により独立混成第三十二旅団司令部を改編し、歩兵第七九旅団司令部編成下令 編成完結（ルソン島、サンフアルナンド） 捷一号作戦準備及び捷一号作戦 停戦 終戦 （注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する 長 中将 荒木正二

第一〇三師団輜重隊

年月日	略歴
昭和一九五一年八月二〇日	軍令により独立混成第三十二旅団輜重隊編成完結（宇都宮）
五月三〇日	門司港出帆
六月十五日	マニラ港上陸
同日	独立混成第三十二旅団長の指揮に入る
七月一日	軍令により独立混成第三十二旅団輜重隊を改編し第一〇三師団輜重隊編成下令
七月一日	編成完結（バギオ）
八月二日	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
八月五日	停戦
九月二日	終戦

（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

隊長 中佐 北原 芳 富

臨時歩兵第二六大隊

年 月 日	略 歴
昭和一九七一年 自 二〇八七二七 至 二一五四七	比島 パギオにて臨時歩兵第二六大隊臨時編成 捷一号作戦準備及び捷一号作戦
九二	停戦
九二	終戦

(注) 終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

特設第十九機関砲隊（尙一七六四〇部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九五	軍令により特設第十九機関砲隊編成下令
一三	編成完結（小倉）
二九	門司港出帆
六一三	比島「マニラ」港着
一五	「マニラ」港上陸
七 三	転進のため「マニラ」港出帆
九	「ミンタナオ」島「カガヤン」港上陸
八一九	同日より機関砲第三大隊長の指揮下に入り「カガヤン」警備
一〇四三〇	より「デルモンテ」一〇三飛行場に展開同地の警備並に対空戦闘参加
六一	転進のため「デルモンテ」出発
八一五	「マライパライ」六料地点において米軍の奇襲をうけ多大の損害を生じ指揮官以下数
九二	個に分散所在部隊と行動を共にし持久的遊撃戦闘を実施しつつ山中を転進
	停戦
	終戦

（注）終戦後米軍収容所入所と共に解隊され爾後各個に復員す

第六五旅団野戦病院第二半部

年月日	略歴
昭和一六二一八	軍令により第六五旅団野戦病院第二半部編成完結（広島）
一四	宇品出帆
一三	基隆上陸、台、中州清水において待機
二六	清水出発
二二八	高雄港出帆
三二	比島リンカエン湾上陸
自、二〇八七二七	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
一五	停戦
九二	終戦

（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

歩兵第八十旅団砲兵隊

年月日	略歴
昭和二〇 五 二〇	軍令により歩兵第八十旅団砲兵隊編成下令
五 二七	編成完結（比島ルソン島カガヤン州）
八 一四	捷一号作戦参加
九 一五	停戦
九 二二	終戦
	（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各国に復員する。
	隊長 大尉 関田助治

独立歩兵第三五六大隊

年月日	略歴
昭和一九五〇年二月八日	独立歩兵第三五六大隊仮編成（宇都宮）
昭和一九五〇年三月二日	宇都宮出発
昭和一九五〇年三月三日	門司港出帆
昭和一九五〇年三月六日	マニラ上陸
昭和一九五〇年三月七日	独立歩兵第三五六大隊編成完結
昭和一九五〇年三月八日	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
昭和一九五〇年三月十五日	停戦
昭和一九五〇年三月十九日	終戦

（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

大隊長 滝上良一

独立歩兵第三五七大隊

年月日	略歴
昭和一九六六年六月一八日	軍令により独立歩兵第三五七大隊編成下令 編成完結（西部第二部隊）
七月三日	門司出発
七月五日	マニラ上陸、同地附近の警備
七月二十四日	捷一号作戦準備及び捷一号作戦参加
八月五日	停戦
九月二日	終戦

(注) 終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

大隊長 少佐 久米 勇

第五菊水隊

昭和二〇

五三

第五菊水隊編成完結（比島ルソン島カガヤン州）

至自

八五
一四

捷一号作戦参加
停戦
終戦

（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

隊長 少佐 助川 正夫

独立機関銃第二六大隊

昭和一九	八一〇	軍令により独立機関銃第二六大隊動員下令
〃	八一五	編成完結（鳥取）
〃	一九	鳥取出發
〃	一三	博多港出帆
〃	三〇	基隆港着
〃	九二七	基隆港出帆
〃	三〇	高雄港出帆
〃	一〇七	マニラ上陸
〃	八〇	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
〃	八一五	停戦
〃	九二	終戦

（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

		臨時工兵第三中隊	
昭和一九	八一六	軍令により臨時工兵第三中隊編成完結	
九一六	九一六	豊橋出発	
一七	一七	門司着	
一〇一	一〇一	門司港出帆	
一五	一五	基隆寄港	
二三	二三	高雄港出帆	
二七	二七	比島北サンフェルナンド上陸	
自一九一〇	至一九一〇	捷一号作戦準備及び捷一号作戦	
一五	一五	停戦	
九二	九二	終戦	

(注) 終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

隊長 中尉 山田 美明

歩兵第八十旅団作業隊

年月日	略歴
昭和一九六六	軍令により歩兵第八十旅団作業隊編成下令
六二二	編成完結(熊本)
六二九	門司港出帆
七二五	マニラ港上陸
自二〇八七 至二〇四七	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
九二一	終戦

(注) 終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

隊長 河野 車

歩兵第八十旅団司令部

年月日

昭和一九七

七 一〇

至自
二〇 八七
一〇 一四七

九 一五

三

略 歴

軍令により独立混成第三十三旅団を改編し、歩兵第八十旅団司令部編成下令

編成完結 (ツゲガラオ)

捷一号作戦準備及び捷一号作戦

停 戦

終 戦

(注) 終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

旅団長 少将 湯 口 俊太郎

歩兵第八十旅団通信隊

昭和一九 八一七	軍令により歩兵第八十旅団通信隊編成下令
一八	編成完結(熊本)
九	門司港出帆
三〇	比島北サンフェルナント上陸
八〇	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
一五	停戦
九二	終戦

(注) 終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。
隊長 大尉 岡山 忠生

独立歩兵第一七六大隊

年 月 日	略 歴
昭和一八 一 三一	独立守備歩兵第六三大隊編成
一八 二 一	軍令により独立主備歩兵第六三大隊を改編し、独立歩兵第一七八大隊編成下
一八 二 三	編成完結（比島ルソン島北サンフェルナンド）
至自 一八 二 三 一八 七 二	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
一八 七 四	停 戦
九 二	終 戦
	（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。
	長 小佐松原勘一

年月日	略歴
昭和二八 一二	軍令により独立歩兵第一七七大隊編成下令
一八 一二 三二	編成完結（比島ルソン島バギオ）
自 二〇九 八七 二四七	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
一五	停戦
九 二	終戦
<p>（注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。</p>	

独立歩兵第一七八大隊

<p>昭和一八 一二 一八 一二 三三 至自 〇九 八七 二七 九 一五 四七 九 二</p>	<p>軍令により独立歩兵第一七八大隊編成下令 編成完結（比島ルソン島バギオ） 捷一号作戦準備及び捷一号作戦 停戦 終戦 （注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。</p>

独立歩兵第一七九大隊

年月日	略歴
昭和十八年二月二十九日	軍令により独立混成第三二旅団編成下令
三月九日	編成完結（長崎県大村市）
四月十三日	門司港出帆
四月二十八日	比島マニラ港上陸
同日	同日独立混成第三二旅団長の隷下に入る。
七月	軍令により独立混成第三二旅団を改編し、独立歩兵第一七九大隊編成下令
七月一日	編成完結
八月七、八、九日	捷一号作戦備準及び捷一号作戦
八月二十五日	停戦
九月二日	終戦

(注) 終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。
隊長 大佐 一瀬末松

独立歩兵第一八〇大隊

年 月 日	略 歴
昭和一九 七	軍令により独立混成第三二旅団を改編し、独立歩兵第一八〇大隊編成下令
至 二〇 七 一〇	編成完結（比島ルソン島バキオ）
八 一 五	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
八 一 五	停戦
九 二	終戦
<p>（注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。</p>	

第一〇三師団司令部

年月日

昭和一九七

略歴

昭和十九年軍令により独立混成第三十二旅団司令部を改編し、第一〇三師団司令部編成下令

編成完結（比島ルソン島バギオ）

捷一号作戦準備及び捷一号作戦

停戦

終戦

（注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ爾後、各個に復員する。

師団長 中將 村岡 豊

自
一九
〇

二〇

七
八
九

一〇
一四
一五

二

第一〇三師団病馬廠

年	月	日	略	歴
昭和一九	七	八	軍令により第一〇三師団病馬廠編成下令	
		二	編成完結（九州小倉市）	
		四	門司港出帆	
		一	比島北サンフェルナンド上陸	
		一四	捷一号作戦準備及び捷一号作戦	
		一五	停戦	
		二	終戦	
		九		
		〇		
		一〇		
		至		

(注) 終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

廠長 獣医中尉 西喜之助

第一〇三師団防疫給水部

年月日	略歴
昭和一九七八 三月二二	軍令により第一〇三師団防疫給水部編成下令
九三	門司港出帆
〇〇	比島北サンフェルナンド 上陸
自 二〇 八〇	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
九二	停戦
九二	終戦

(注) 終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

第一〇三師団通信隊

年月日	略歴
昭和一九七〇年七月一日	昭和十九年軍令により独立混成第三十二旅団を改編し、第一〇三師団通信隊編成下令
昭和一九七〇年七月二日	編成完結（比島ルソン島バギオ）
昭和一九七〇年八月五日	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
昭和一九七〇年八月五日	停戦
昭和一九七〇年九月二日	終戦
	（注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。
	隊長 大尉 甲斐清一

第一〇三師団野戦病院

年月日	略歴
昭和一九七八	軍令により第一〇三師団野戦病院編成下令
二	編成完結(宇都宮)
九四	屯営出發
九	門司港出帆
一九	台湾高雄港着
二六	高雄港出帆
三〇	比島ラウニオン州サンフェルナンド港着
一〇	同港上陸
一〇	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
一四	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
一五	停戦
九二	終戦

(注) 終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

歩兵第七九旅団通信隊

年、月、日	略歴
昭和一九八八年八月一八日	歩兵第七九旅団通信隊編成下令
昭和一九八八年八月六日	編成完結（熊本） 門司港出帆
昭和一九八八年八月三日	比島マニラ上陸
昭和一九八八年八月四日	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
昭和一九八八年八月五日	停戦
昭和一九八八年八月九日	終戦

（注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。
隊長 石川和夫

第一〇三師団臨時開拓勤務第一八中隊

年月日

略

歴

昭和一九八四

二二

九二四

一一一〇

自一九八一

一一四一

九二五

中部四三部隊において仮編成下令
 広島出帆

北サンフェルナンド上陸

臨時開拓勤務第一八中隊編成完結（比島カガヤン州ラロ町）

捷一号作戦準備及び捷一号作戦

停戦

終戦

（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

中隊長 中尉 潮田 実

独立戦車第九中队

年月日

略歴

昭和一九六〇年八月二〇日

軍令により独立戦車第九中队編成完結（久留米）
マニラ上陸

自一九四九年八月二〇日

捷一号作战準備及び捷一号作战

停戦

（注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

隊長 中尉 中島保男

至一九四九年八月二〇日

独立速射砲第一八大隊

年月日	略歴
昭和一九二五年七月二五	軍令により独立速射砲第十八大隊仮編成下令（中部三七部隊）
一九二六年八月六	門司港出帆
一九二六年八月二二	比島マニラ港上陸
一九二六年八月二六	独立速射砲第一八大隊編成完結（マニラ）
一九二六年八月二四	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
一九二五年八月一五	停戦
一九二二年九月二	終戦

（注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

野戦機関砲第五四中隊

年月日

略

昭和一九二五年

軍令により野戦機関砲第五四中隊編成完結（千葉）

二六

千葉出発

八六

門司出港

二五

マニラ上陸

自一九二〇年

八月二四

捷一号作戦準備及び捷一号作戦

一五

停戦

九二

終戦

（注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

隊長 大尉 田中寛司

野戦機関砲第五三中隊

年月日	略歴
昭和二九 七二五	軍令により野戦機関砲第五三中隊編成完結(千葉)
七二六	千葉出発
八 六	門司港出帆
八二五	マニラ上陸
自二〇九 八八二	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
至二〇九 一五四	停戦
九 二	終戦

(注) 終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

隊長 大尉 高橋留吉

臨時歩兵第二七大隊

年 月 日	略 歴
昭和一九一七年七月一日	北島ルソン島ハパンガンにて臨時歩兵第二七大隊臨時編成
自一九一八年七月四日	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
至一九一八年八月五日	停戦
一九一八年九月二日	終戦

(注) 終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

第三移動兵器修理隊

年月日	略歴
昭和一九 七 一五	軍令陸甲第六六号により第三移動兵器修理隊動員下令
七一八	動員完結（津田沼）
七三〇	津田沼出発
八 二	門司港出帆
九 一五	マニラ港上陸
二〇 一	爾後十二月下旬まで同地駐留
二〇 五	一月上旬より四月二十四日迄「バギオ」郊外「トリンダット」に駐留
二〇 八	五月初旬より七月末迄「バギオーポントック」道上九〇行附近に駐留
二〇 八一五	八月上旬より終戦時まで山岳州「トツカン」に駐留
二〇 九 二	停戦
二二 一二一八	終戦
二二 一二八	内地帰還のため「マニラ」港出帆
二二 二八	浦賀港上陸
二二 三一	復員完結

独立自動車第三三〇中隊

年 月 日	略 歴
昭和一九六〇 一九六〇	軍令により独立自動車第三三〇中隊臨時編成下令 臨成完結（久留米）
六一九	久留米出発
六二七	宇品港出帆
七三	門司寄港
七七	基隆寄港
七一五	比島マニラ港上陸
七一九	渡集参動第四二四号に依り臨時動員下令
七二二	動員完結
二〇一	爾後マニラ地区の輸送業務に従事
二〇六	以後、北部ルソン地区の輸送業務に従事
二〇八	以後、キャンガン奥地の輸送業務に従事
二〇八 一五	停戦
九二二	終戦

	昭和
	九二八
	カランバ収容所に入る
	一二一八
	内地帰還のためカランバ出発
	一二二三
	大竹港上陸
	一二二五
	復員完結

独立混成第五八旅団司令部（盟第七二〇三部隊）

年月日	略	歴
昭和一九六	軍令により独立混成第五八旅団司令部動員下令	
一九六一三	編成完結（弘前）	
六二七	宇品港出帆	
七一五	比島マエラ港上陸	
自一九一七 至一九一五	リンガエン湾沼域に於ける警備並びに陣地構築に従事	
自一九一七 至一九一五	リンガエン湾よりポンドック道に至る地域に於て戦線に参加	
一九一五	停戦	
一九二	終戦	

（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ爾後各個に復員する。

独立歩兵第三七八大隊（盟第七二〇四部隊）

年月日	略歴
昭和一九六六年六月一五	軍令により独立歩兵第三七八大隊動員下令
一九六七年七月	編成完結（山形）
一九六八年	宇品港出帆 比島マニラ港上陸
自一九六八年一月一六	爾後リンガエン湾沼域に於ける警備並びに陣地構築に従事
至一九六八年八月一五	リンガエン湾よりポンドック道に至る地域に於て戦闘に参加
一九六九年二月	停戦 終戦

（注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ爾後各個に復員する。

独立歩兵第三七九大隊（盟第七二〇五部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九六 六 六一七	軍令により独立歩兵第三七九大隊勅員下令 編成完結（秋田）
六二八	宇品港出帆
七一五	ルソン島マニラ港上陸
七二〇	パンガシナン州ピラシス警備
八一	ラウニオン州リンガエン湾陣地構築
八一四	リンガエン湾よりポンドック道に至る地域に於て戦闘に参加
八一五	停戦
九二	終戦

（注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ爾後各個に復員する。

歩兵第八十二旅団司令部（勤第一〇六九二部隊）

年 月 日

昭和一九

七 一〇

二〇 八 一五

九 二

略

歴

軍令により歩兵第八十二旅団司令部編成下令

編成完結（比島マニラ）

爾後同島に在りて捷一号作戦の準備並に捷一号作戦に参加

停 戦

終 戦

（注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

歩兵第八一旅団司令部（勤第一〇六九一部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九七 七 一〇	軍令により歩兵第八一旅団司令部編成下令 編成完結（比島ルソン島）
自 二〇 八 七 一 四	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
至 八 一 五	停戦
九 二	終戦

（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

第百五師団輜重隊（勤第一〇六〇九部隊）

年月日	略歴
昭和一九五〇年五月一日	編成完結（金沢市）
昭和一九五〇年五月二四日	金沢出発
昭和一九五〇年五月二六日	門司港出帆
昭和一九五〇年六月八日	比島マニラ上陸
昭和一九五〇年七月	軍令により独立混成第三三旅団を改編し、第一〇五師団輜重隊編成下令
昭和一九五〇年七月	編成完結
昭和一九五〇年八月四日	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
昭和一九五〇年八月五日	停戦
昭和一九五〇年九月二日	終戦

（注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

独立歩兵第一八一大隊（勤第一〇六六一部隊）

年月日	略歴
昭和一八二二 一九一一	軍令により独立歩兵第一八一大隊編成下令 編成完結（比島ルソン島） 同地警備
自 二〇 八七 八四	捷一号作戦準備及び捷一号作戦参加
至 九二	停戦 終戦
	（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ爾後、各個に復員する。

第百五師団通信隊（勤第一〇六六四部隊）

年月日	略歴
昭和一九七	軍令により第一〇五師団通信隊編成下令
至自 二〇 七	編成完結（比島ルソン島ロスバニオス）
八七	捷一号作戦準備及び捷一号作戦参加
八一	停戦
八五	戦
九二	終戦

（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

第百五師団砲兵隊（勤第一〇六六三部隊）

年月日	略歴
昭和一九六六年六月一日	軍令により第一〇五師団砲兵隊編成下令
昭和一九六六年六月一日	編成完結（比島ルソン島ロスバニオ）
昭和一九六六年六月一日	同島の警備
昭和一九六六年八月四日	捷一号作戦準備及び捷一号作戦
昭和一九六六年八月五日	停戦
昭和一九六六年九月二日	終戦

（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊させられ、爾後各個に復員する。

中迫撃砲第六大隊（鉄第一二四三三部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九 八 八	軍令により中迫撃砲第六大隊動員下令
八一五	編成完結（福井県鯖江）
八一九	屯営出發
九 四	門司港出帆
九 一	沖繩那覇港上陸
一一 一四	那覇港出帆
一一 二	基隆上陸
一一 四	高雄港出帆
一一 二	比島マニラ上陸
一一 一四	第十四方面軍津田支隊（独立歩兵第十一連隊）に配属 爾後デンガラ湾東部海岸ウイドロツク附近の警備
二〇 一 一四	転進のため前進
三 九	パレテ峠東方三十料附近陣地に到着同地の警備
六一八	転進のため同地出發

昭和

九二五

終 停
戦 戦

(注) 終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊せられ爾後各個に復員する。

中迫撃第七大隊（鉄第一二三四部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九八五 九二〇	軍令により中迫撃第七大隊動員下令 編成完結（福井県鯖江）
一一二六	鯖江出發
一一二九	門司港出帆
一一三三	台湾高雄着
一一三三	高雄港出帆
一一二六	比島ルソン島北サンフェルナント港上陸
一一〇四	第十師団に配属され同地出發
一一一六	中部ルソン、ロザリオ、サンホセ、ブンカンを経てスエバピスカヤ州パレテ峠着
自 二〇 六六	パレテ峠サラサク峠に於ける戦斗に参加
八 一五	停戦
九 二	終戦

（注）終戦後半軍の收容所に入ると同時に解隊させられ爾後各個に復員する。

第一〇師団第二野戦病院

年月日	略	歴
昭和一九 八 八	軍令により第十師団第二野戦病院動員下令	
八 七	編成完結（姫路）	
八 二二	姫路出発	
九 二	門司港出帆	
九 二〇	台湾高雄港上陸	
一一 一〇	高雄港出帆	
一一 二三	北部ルソン島上陸	
一二 一〇	カバラオ山係バレット着	
四 二七	同地附近に野戦病院開設	
二〇 八 一五	第一戦退陣のため病院も後退しカバラオ山東方のアルワット、マムヤン、ピノン、カシブ更にカマヤン河上流のピナバカン等へ転進す	
二〇 九 二	停戦 終戦	

（注）終戦後米軍の収容所に入ると同時に解隊し爾後各個に復員する。

第一〇師団第四野戦病院（鉄第五四六〇部隊）

年月日	略歴
昭和一九 八 八	軍令により第十師団第四野戦病院動員下令
八 五	編成完結（姫路）
八 二三	姫路出発
九 四	門司港出帆
九 二二	台湾高雄上陸
一一 一四	高雄港出帆
一一 二三	第一半部ルソン島北端バドリナオに上陸
一一 二三	第二半部ルソン島西岸サンフェルナンド沖に於て潜艦攻撃を受け轟沈
一一 二三	バレテ峠北麓サンタフェ附近にて第一、二半部合体し、野戦病院開設
一〇 一 二〇	サンタフェ陣地を撤収アリタオを経てコモンに到り業務開設
一〇 五 八	コモンを撤収ドバックス、カシブに到り現地自活
六 七	カシブを撤収ビナバガン、バラングアグに至る
七 二〇	停戦
八一五	終戦
九 二	

（注）終戦後米軍の收容所に入ると同時に解隊せられ爾後各個に復員する。